

後期高齢者医療制度に怒る道民の会

ニュース No.5

2008年
6月3日

事務局：北海道社保協

電話011-758-2648 FAX011-758-4666

たった20日間であつという間に

不服審査請求659人に！

うば捨て山への強制連行はごめんだ

これだけの国民がイヤだといっている制度は、すぐに廃止すべき 年寄りを粗末にする国は滅びるよ

きれいに晴れ上がった2日、道庁赤れんが前には約70人が集まり、みな手に手にプラカードを持ち、提出会場へ向かいました。

会場では、6人の代表が「贅沢をしたいわけではありません。当たり前の暮らしをしたいだけです」「本人の意向を無視して、後期高齢者医療制度に加入させるというのは、うば捨て山に強制連行されるようなものだ」「年寄りを粗末にする国は滅びますよ」とそれぞれ思いを語りながら、医療審査会事務局を担当する道国保課の高橋参事へ、請求書を手渡しました。

最後に、渡部代表が「請求書には一人一人の怒り・不安・悩みがビッシリと詰まっている。その思いに応える審査をお願いしたい」と要望しました。

その後記者会見にのぞみ、「保険料が安くなると聞いていたのに、1年で2万円も高くなっていて、ビックリした」と不安・怒りを述べました。

午後からも次々と請求書が送られてきて、最終的には659人の大規模な審査

請求のとりくみとなりました。夕方のローカルニュースで次々と報道され、大きな反響を呼ぶ行動となりました。



260人が怒りの集会

おれに怒り、闘い、勝利の高笑いを

5月31日に開かれた「怒りの道民集会」には、遠く名寄・函館から審査請求書を持参してきた方など含めて260人が参加して熱気あふれる集会となりました。峯廻西円山病院院長が「年齢で医療に区別を持ち込むことは医学ではけっしてはいけないことになっている」と制度の問題点を指摘。

90才になる大竹三郎さんは「怒ってばかりだと体によくないといわれた。でも今は怒るとき。おおいに怒って、制度の廃止をかちとり、みんなで大笑いすればいい」と述べて、大きな拍手を浴びました。

